

釧路の神社

戸田 恭司*

Notes on the Shrine in Kushiro

Kyoji TODA*

1

かつて神社は、地域の人々にとって信仰の対象として日々の生活に根づいていた。神社の祭りは地域の最大の行事であり、日頃の神のご加護に感謝しつつ、人々は神々との、またお互いの絆を確認し合ったことであろう。しかし、地域を取り巻く環境の変化とともに、地域の担い手であった人々が土地から離れていったり、互いの連帯感が薄らいでいく中、神社に対する信仰もしだいに衰退しているように思われる。

現在、釧路市内には神社と名のつくところが20ヶ所をこえる。今回は、各社の概要をまとめてみたものである。調査対象としたのは「神社」の名称のあるところで、地域住民の信仰の対象となっているものを選び、文献調査とあわせて地域の方々から聞き取り調査を行った。なお今回、調査が及ばなかったところや対象に加えるかどうかの判断がつかかぬところが若干あったことをお断りする。これらについては今後の課題としたい。

明治以前の神社については、いくつかの紀行文等の文献に記録されている。江戸後期、荒井保忠の「東行漫筆」(文化6年)にはクスリに「社三ヶ所、弁天、イナリ、山神」という記述があり、広く知られている。また、橋山隆福の「東蝦夷地と里国後へ陸地道中繪圖」(文化7年)の中には、クスリ会所の建物の両脇に弁天とイナリの社が描かれている。

2

それでは、各社について概観してみる。表1の一覧には、名称・所在地・創祀年・例祭日・祭神・由来や変遷の項目を設けた。この項目ごとに追ってみる。名称は通称名で呼ばれているものも含まれる。所在地の名称、または所在地に関わりのある名称を用いているものが半分ほどで、ほかには祭神の名を入れているところが多い。所在地は字名として設定されている名称を用いた。地域的な分布を見ると、釧路川以東が15社であり、中でも早くから開けた旧釧路川以東が11社となっている。一方、釧路川以西は7社となっている。

創祀年は明治期(それ以前も含めて)が10社、大正期

は5社、昭和期以後は4社。残りは不明となっているが、それぞれの集落の成り立ちからすると、明治～大正期、少なくとも昭和初期には創祀されていたと思われる。例祭日は、その神社において最も規模の大きい重要な例祭の行われる日とした。これによると、7～10月となっている。漁業を生業とする海岸線の集落の多い東部ではほぼ7月としており、酪農地帯の西部では9月という違いが見られる。かつては日にちの決められていた祭日も、時代の流れとともに土・日曜日にあわせて行うところが増えている。また、祭事を司る宮司が置かれている社は全体の3分の1に当たる7社で、小規模で宮司の置かれていない他の社の例祭やその他の祭事を兼務している。

祭神は基本的には各社で使われている名称としたが、できるだけ統一した。この中では稲荷が最も多く、大山祇や妙見・八幡などが見られる。複数の神を祀る社は8社あり、巖島神社では7神、三吉神社では5神となっている。由来・変遷については後述する。

神社の形態をみると、社殿は拝殿の中に本殿を設ける形が多い。海岸線の集落では、わずかな広さの拝殿や拝殿もなく本殿のみという小規模な社が見られる。鳥居は最も簡素な神明鳥居が多く、このほかいくつかの様式が見られるが、混合または混同されているものが認められる。様式にこだわらなかったのか、または様式に関する知識が乏しかったのかは判断できない。

境内の造営物のうち、燈籠・狛犬・水盤(手水鉢)・社号標の有無を見てみると、燈籠や水盤がある社は半数ほどであるのに対し、狛犬や社号標のある社は5～6社にすぎない。これらの中で最も古いものとしては、巖島神社に「文政十年」の銘が刻まれた水盤がある。同社にはほかに、「元治二年」銘の狛犬や北海道指定有形文化財の円空作仏像業師像などの奉納物がある。全般的に各社とも奉納物は少ない。また、三吉神社の玉垣は昭和11(1936)年昭和天皇の行幸を記念して奉納されたもので、当時の市長をはじめ多くの寄進者の名が刻まれている。宝物殿ではないが、鳥取神社には鳥取百年館という施設が併設されている。ここには鳥取県出身の移住者に関する生活資料のほか、鳥取藩主池田氏ゆかりの品々や鳥取神社の関係資料が収蔵され、一般に公開されている。

*釧路市立博物館(Kushiro City Museum, Kushiro, Hokkaido)

表1 神社一覧

整理番号	名称	所在地	創祀年	例祭日	祭神
1	巖島神社	三津浦	大正期末	7月中旬	竜神
2	稲荷神社	三津浦		7月上～中旬	稲荷大神
3	桂恋神社	桂恋		7月中旬	稲荷大神
4	益浦神社	益浦			稲荷大神
5	興津神社	興津	大正～ 昭和初期	7月第2日曜	竜神
6	春採神社	桜ヶ岡	明治23年	7月中旬の日曜日	大山祇大神
7	巖島神社	米町	江戸後期	7月14～17日	市杵島姫命・阿寒大神・金比羅大神・秋葉大神・海津見大神・猿田彦大神・稲荷大神
8	鋼路護国神社	米町	昭和40年	8月	
9	武富稲荷	南大通	明治24年		稲荷大神
10	三吉神社	浦見	明治22年	8月第1日曜	三吉大神・大己貴命・少彦名命・船魂大神・稲荷大神
11	富士見神社	富士見	昭和7年	7月上旬～中旬 (土・日曜)	稲荷大神・豊受皇大神・熱田皇大神
12	日枝神社	旭町	昭和2年	8月15日	大山昨神
13	御得稲荷神社	寿町	明治12年	10月8～10日	稲荷大神・妙見大神
14	八幡神社	寿町	大正8年	8月下旬	八幡大神・妙見大神・大山祇大神
15	共栄稲荷神社	若松町	大正8年	8月8～10日	宇迦之御魂大神・本祠大神・妙見大神
16	稲荷神社	鳥取南	大正9年	8月1日	稲荷大神
17	鳥取神社	鳥取大通	明治24年	9月14・15日	大国主神
18	大楽毛神社	大楽毛	明治31年	9月第2土・日曜	妙見大神・八幡大神・大山祇大神
19	山花神社	山花	明治26年	9月4・5日	天照大神・稲荷大神・妙見大神
20	桜田神社	桜田	明治35年	9月14日	大国主神
21	桜田秋葉神社	桜田	昭和8年頃		秋葉山大神権現
22	鶴丘神社	鶴丘	明治末期頃	9月	八幡大神・天御中主大神・大山祇大神・大国主神

釧路の神社

由来・変遷など
サケ定置網の中にかかった石を竜神とって引き揚げ、祠をつくって祀ったことが始まり。
由来は不明。
由来は不明。現在社殿のある所にはかつて観音堂があり、そこで寺子屋が開かれたという。(明治5年)
由来は不明。
竜の姿を目撃した人が、その場にあった石を竜神として私祭したことに始まると伝えられる。のちに地域の神社として社殿を建立。社殿が失火で焼失したため、現在地に遷座新築された。
春島炭山の採掘開始とともに、山の神として分霊勧請された。一度遷座した後、昭和56年現在地に遷座。昭和4年境内に稲荷社を建立。
「巖島神社略記」によると、場所詣負人佐野孫右衛門が漁場の安全を願って勧請したとされている。明治24年に現在地に鎮座。大正12年に県社となる。
釧路殉公社として巖島神社境内に建立。昭和45年に現在名に改称。日露戦争以来の釧路支庁管内の戦没者を祀る。
佐野家の事業を継承した武富善吉が屋敷内に勧請。料亭「八浪」を中心とした奉賛会によって管理されている。
祭祀年は「三吉神社由緒抄」による。この中では、大島徳右衛門という神職有資格者が私祭していたのが始まりとされている。昭和3年に村社となる。
舌辛村(現鶴居村)下雪村にあったサケ捕獲場内で祀られていた稲荷を、昭和7年に現在地へ遷座したのが始まり。
新潟県北蒲原郡次第浜(現聖籠町)出身者を中心に、郷里の日枝神社から分霊勧請した。
個人の漁場に私祭したのが始まり。明治18年、地域の神社として現在の名称となる。のち、妙見大神を合祀。
神道大教三山敬愛教会釧路八幡宣教所として創建。昭和28年に八幡神社と改称。
和歌山県出身の鈴木新次郎が伏見稲荷大社より分霊勧請。昭和9年に現在地に遷座、共栄稲荷神社と称する。
日本製紙敷地内に鎮座。前身の富士製紙釧路工場の操業に伴い、同社大坂工場を経て伏見稲荷大社より分霊勧請。昭和7年から、例祭と併せて工場での殉職者慰霊祭を行っている。
明治10年代に移住した鳥取県出身者によって、郷里の代表的な神社である出雲大社より分霊勧請。富士製紙(現日本製紙)操業に伴い、大正7年現在地へ遷座。昭和4年に村社となる。
細沼彦治が入植時に郷里の妙見神社のお札を祀ったのが始まり。明治44年、現在地に社殿を建立。
愛知県出身者が中心となって、伊勢神宮より分霊勧請。当初はオンネビラ(旧地区名)神社と称した。昭和51年に2神を合祀。
鳥取県移住者二代日原次郎が中心となって、鳥取神社から分霊勧請。当初はユツパナイ(旧地区名)神社と称した。一時遷座した。
移住者の郷里の新潟県秋葉山常安寺より分霊勧請。昭和38年現在地(桜田神社境内)に遷座。
全国各地からの移住者がそれぞれ私祭していた神を、社殿を建立して合祀したのが始まり。昭和50年頃に現在地へ遷座。この際に鳥取神社の分社という形をとり、大國主神を合祀した。

ほかに、境内に石碑類が建立されている社が9社あった。神社と関わりのあるできごとや地域の開拓に関する内容が多い。たとえば、鳥取神社には「鳥取開拓八十年記念碑」「北海道百年記念鳥取村移住地遺跡」「くし塚」「筆塚」の4基があり、後者の2基は当社でくしと筆の供養が行われたことを記念して建立されている。また、山花神社には銅路市周辺の町にまたがる四国八十八か所霊場の一部も置かれている。

3

神社の由来・変遷については、一覧表のなかでも簡単にふれているが、ここでもう少し詳しく見ていきたい。神社が建立されていった経緯については、いくつかのケースが見られる。一つには、移住者が私祭していた神が地域の発展とともにその守護神として受け入れられた場合がある。また、移住者がそれぞれ私祭していた神を、社殿を建立して合祀したのは鶴丘神社である。合祀したという点では、大築毛神社には八幡と大山祇を後から合祀しているが、この2神もともと私祭されていたという。

一方、地域の全体または多数が同郷の出身者で占められている場合は、当初から地域の神社として迎えられている。鳥取神社はその代表例であり、さらにここから再移住した人々によって鳥取神社から分霊勧請されたのが桜田神社となっている。また、日枝神社も地域に新潟県出身者が多かったことから郷里にある日枝神社から分霊してきている。海岸線の集落では、漁業にまつわる話が由来と結びついていることが多い。漁で網にかかった石を竜神として祀ったり、岩場で竜の姿を目撃した人がその岩場にいった石を竜神として祀ったという言い伝えが残され、後に地域の神社として祀られるようになっていく。また、自宅近くの沢地に竜神の石があると信仰心のある人に言われて、石を持ち帰り私祭している例もあった。

新たな産業の操業に伴い、建立された神社もある。現在、日本製紙の敷地内にある稲荷神社は、大正9（1920）年同地に富士製紙銅路工場が操業するにあたり建立されている（銅路市製紙工業史研究会 1987）。かつては地域をあげて例祭が行われていた。春採神社は当時の春鳥炭山の本格的な採掘開始とともに、坑口に近い場所に大山祇大神を祀っている。その後、事業の拡大に伴い、中心が移動したため社殿も遷座。さらに坑口付近にも神社を建ててほしいという坑内作業員の願いから、新たに小規模な社が建立されている（太平洋炭礦 1970）。このことは、先に建立された神社が地域の人々が参拝しやすい場所に移動したため、新たに日々の作業の安全を祈る神社を必要としたものと思われる。

今まで見てきた神社は地域の人々が生業と深い関わりがあったが、その点富士見神社は異なる。同社の由来は前氏子総代のメモによると、舌辛村（現鶴居村）下雪裡にあったサケ捕獲場が移転する際に、同場内で祀られて

いた稲荷を昭和7（1932）年遷座したものだという。当時、富士見地区には隣交会というのちの町内会にあたる住民の組織があり、この会員の一部が捕獲場の管理運営を行っていた機関と関わりがあったことから、地域の発展を願って譲り受けたとされている。現在、同地区はバス通りに小売店が並ぶ住宅街となっている。

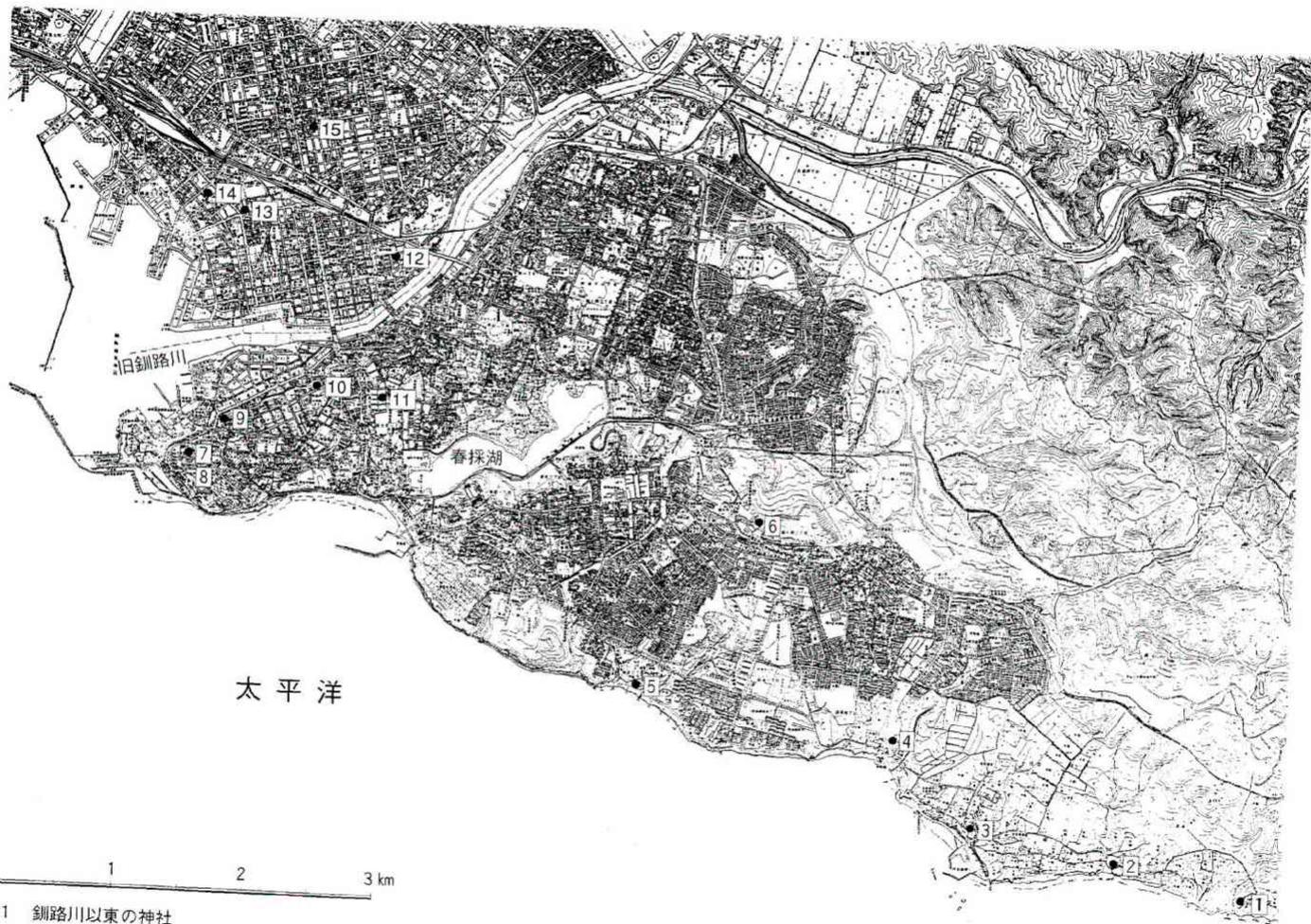
4

これまで姿を消した神社もいくつかある。たとえば、昭和7年発行の「銅路市大日本職業別明細図」には「伏見稲荷社」「笹浪稲荷社」の名が見えている。また、昭和23（1948）年頃まで若竹町には相馬妙見神社があった（曾根 1984）。これらの中には後継者がいなかったために廃社となり、御神体をほかの社へ合祀したり、個人が私祭したりという経過をたどっている。

今回は市内の神社の概要のみを記すにとどまったが、神社についての記録が思いのほか少ないことをあらためて感じた。また、聞き取り調査においても、神社の創祀に関わる部分では時代が古いめか、はっきりしたことがわからないことも多く、世代交代が進むにつれてよりこの傾向が強まると思われ、情報収集が急がれる。今後、銅路市周辺の神社をも視点に入れて地域の人々と神社との関わりをより詳しく調べていきたいと考えている。聞き取り調査には多くの方々にご協力をいただいた。感謝申し上げます。

引用・参考文献

曾根啓次 1984. 鳥取移住百年誌 銅路叢書23 銅路市 423pp.
 銅路市製紙工業史研究会 1987. 銅路の製紙 上 銅路叢書25 銅路市 305pp.
 銅路市製紙工業史研究会 1990. 銅路の製紙 下 銅路叢書27 銅路市 473pp.
 銅路市史編さん員会議編 1972. 新銅路市史3 銅路市 971pp.
 銅路市史編さん員会議編 1974. 新銅路市史4 銅路市 947pp.
 佐藤有紹 1992. 銅路の近世絵図集成 銅路叢書29 銅路市 153pp.
 寺島敏治 1991. 馬産日回・銅路 銅路新書19 銅路市 209pp.
 銅路古文書研究会 1996. 銅路碑文手帳I 銅路新書22 銅路市 243pp.
 曾根啓次 1994. 鳥取神社百年史 鳥取神社 782pp.
 太平洋炭礦 1970. 50年のあゆみ 121pp.
 鷹田和喜三 1990. 移住漁民の講集団の形成と母漁村の文化的背景（Ⅱ）－銅路市旭町の日枝講の事例－銅路公立大学紀要社会科学部研究第2号第2分冊47-76.



太平洋



図1 鉧路川以東の神社



図2 釧路川以西の神社



巖島神社（三津浦）



桂恋神社



春採神社



巖島神社



三吉神社



富士見神社



日枝神社



八幡神社



御得稲荷神社



共栄稲荷神社



稲荷神社



鳥取神社



大楽毛神社



山花神社



桜田神社



鶴丘神社